

未来・創造を

繋げる町に

菌田靖邦町長、町政に臨む想いを語る



10月16日に就任した菌田靖邦町長
10月3日に行われた川根本町長選挙で初当選を果たし、第4代川根本町長に就任した菌田靖邦氏。10月18日に初登庁し、職員に拍手で出迎えられました。就任式では「町民の安心と安全を守り、未来につながる町づくりを目指す」と訓示。新しい町政運営に対し、力強く語りました。
移住・定住の促進と主要産業の活性化の相乗効果を生み出し、「未来・創造を繋げる町」を掲げる新しいリーダー。本号では、菌田町長の想いと合わせて、地域住民の皆さんの「声」を紹介します。

【略歴】

菌田 靖邦(そのだ やすくに)
年齢：62歳
座右の銘：誠意 勤労 見識 気魄
昭和33年11月22日生まれ。国土館大学卒業。
静岡県消防協会榛原支部長、中川根町消防団長、JA大井川農協理事を歴任し、川根本町議会議長や静岡県町村議会副会長を務めた。
令和3年10月16日川根本町長に就任。

まずは、退任された鈴木町長のご功績に感謝申し上げ、強い決意をもって町政を引き継ぐことをお約束します。

この選挙期間中、町内隅々を回り、コロナ禍における皆さま方の苦境やご不安を改めて感じました。徹底した予防対策を講じ大切な命を守るとともに、事業者支援に努めてまいります。

さて、この町は人口減少による農林業や観光商工業の担い手不足、高齢者が食料品を購入する手段の減少のほか、子育て支援体制など依然として厳しい状況にあります。地域住民の皆さまの思いや声をしっかりと受け止めて、政策を確実に実行していくことこそが、私の務めと考えています。

〈二つの公約〉

私は次の二つを公約とします。

一 移住・定住を促進します。

少子高齢化に伴う人口減少は、地域経済の縮小を招き、雇用の場の確保や生活基盤の維持が困難に

なることが危惧され、歯止めを掛けなければならぬ喫緊の課題です。この状況を打破するためには、川根本町に住みたい、仕事があったい、子どもを育てたい、そして川根本町に住んで幸せだ、と思える町にしていかなければなりません。コロナ禍で都心部から地方への移住希望者が増加傾向にある今をチャンスと捉え、その受け皿として、移住に特化したプロジェクトチームの設置を目指します。そして、希望者に分かりやすい情報発信体制を構築し、移住前後の相談、支援体制の強化を図っていきます。

二 主要産業の活性化を推進します。

本町の基幹産業である茶業のほか、観光業や商工業、林業の発展を促すためには、後継者確保が急務です。次代を担う人材の育成・定着に向けて関係機関と連携を図りながら、既存事業者への持続可能な創業支援、そして新規参入者への起業支援体制の構築を目指します。

【重要施策】3つの柱

● 町民が安心して暮らせる町

- ① 高齢者・障がい者福祉の充実
健康寿命延伸のための医療体制と健康づくりの推進を図り、地域包括ケアシステムのさらなる充実を実現させます。
- ② 子育て支援と次世代教育
2歳までのオムツの無償化の他、安心して出産ができる医療機関との連携強化を図ります。また、将来につながるICT・IoT教育の充実を図ります。

● 町民の安全な暮らしを守る

- ③ 災害対策
町全体で消防団・消防局・地域の連携を密にし、危機管理体制の充実を図ります。
- ④ 豊かな自然環境の保護
リニア建設工事に伴う大井川の水を守り、他市町と連携を強化しながら自然環境の保護に努めます。

- ⑤ 新型コロナウイルス感染症対策
感染拡大の防止をはじめ、国や県の動向を注視しながら、3回目ワクチン接種に備えます。

● 未来・創造をつなげる町に

- ⑥ 移住定住促進と企業誘致
ICTを活用したサテライトオフィスなど企業誘致を推進します。
- ⑦ 魅力ある景観と環境づくり
地域内外のマンパワーを活用し、町のにぎわいを生み出します。
- ⑧ 既存施設の有効活用
既存施設の効率的な運用および適切な維持管理に努め、町の財政状況に即した活用を進めます。

むすびに

以上、私のまちづくりに懸ける想いの一端を述べさせていただきましたが、「公約」を実行・達成させるためには、皆さまのご理解とご支援が不可欠です。これからの4年間、町の行政を担う者として、町民の目線に立ち、誰もが安全・安心で豊かに暮らし、未来を創造していくことができる町づくりの実現を目指します。

町づくりへの想い